

# 安曇野の地下水を保全する

## 安曇野市水資源対策協議会総会

安曇野市水資源対策協議会(会長 平林市長)の総会が5月29日、堀金総合支所会議室で開催されました。

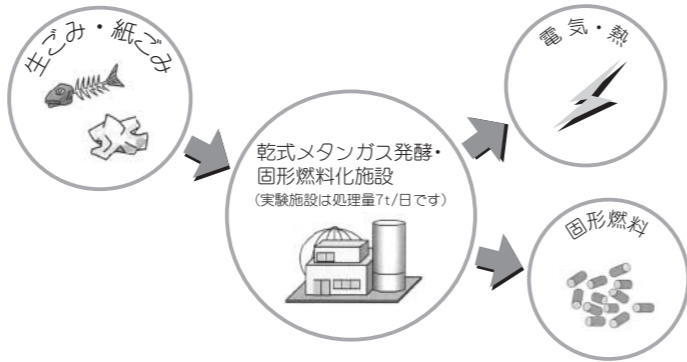
この日は、地下水利用の実態を把握し、今後の有効利用や保全、涵養などの施策の基礎資料とするため、昨年度に実施した地下水利用実態調査の結果が報告されました。市内にある井戸548カ所(利用井戸442カ所・不利用井戸106カ所)を対象に行った実態調査では、利用されている井戸のほぼ半数が家庭用で、次いで事業用が4分の1を占めていました。利用量の合計は、年間日平均14万7,554立方メートルで、昭和58年度の調査の17万8,423立方メートルに対して、約3万立方メートル減少していることが報告されました。また、用途別利用では、養魚用が約4割、水道用および事業用が合わせて約5割を占めていました。

このほか、市内62カ所で一斉に行った地下水位等の観測では、地下水位等高線が三川合流の湧水地帯を中心に西側に広がる半同心円状で、湧水地帯に向かって周囲から地下水が集まっている状況が示され、これまでの調査と比較してもほとんど変化はありませんでした。同協議会は、今後も地下水利用の実態調査や水位観測などを継続して行っていく予定です。同協議会の会長を務める平林市長は「素晴らしい地域の資源である地下水は、解明されていない部分もありますが、調査を進めて安曇野市だけではなく、周辺市町村にも取り組みを広げ、発展させていきたい」とあいさつしました。



■問い合わせ  
安曇野市水資源対策協議会事務局  
(企画財政部企画政策課内) (TEL71・2000)

## バイオマスエネルギー地域システムのイメージ



ガスを取り出し、発酵後の残りかす(残渣)を固形燃料として既存の焼却施設の助燃剤として活用します(上図参照)。  
実験施設では、本稼動になれば最大1日7トンのごみ(家庭ごみ4ト、飲食店などの事業系のごみ3ト)を投入し発酵させます。施設からは1日約1,600立方メートルのバイオガス(メタンガス)を発生させ、このガスで110〜130キロワットを発電(一般家庭約40世帯分に相当)、実験施設の電力を賄うほか、余った電力は、

夜間のし尿処理施設で使用する予定です。  
組合は、大学教授など有識者による実験事業評価委員会を開催し、ガスの品質と発生量、コスト面での採算性などを検証する予定です。  
◇実験事業の目指すもの  
生ごみやリサイクルできない紙ごみをエネルギー資源として有効利用することは、焼却施設での化石燃料の使用量の削減を可能にし、地球温暖化防止や環境へ与える負荷の

低減につながります。  
実験事業は、21年度まで続け、成果を検証しながら焼却ごみの削減につなげていきたいと考えています。  
■問い合わせ  
市民環境部環境課  
(TEL 82・3131)

穂高クリーンセンターに隣接する乾式メタンガス発酵・固形燃料化施設



今、私たちは深刻な環境問題に直面しています。それは、大量に増えてしまった廃棄物の問題です。私たちは、利便性を追求し、たくさんものを消費し、使い捨てにしてきました。ごみ問題が深刻になる中、「使い捨て」というこれまでの生活様式を見直し、廃棄物を極力出さない社会システムづくりが求められています。  
廃棄物を出さない社会。それは、限りある資源やエネルギーを有効に利用し、地球環境に負荷の少ない「資源循環型」の社会です。  
市では、資源循環型社会の形成に向けて、3つの生ごみ分別回収モデル事業を実施しています。

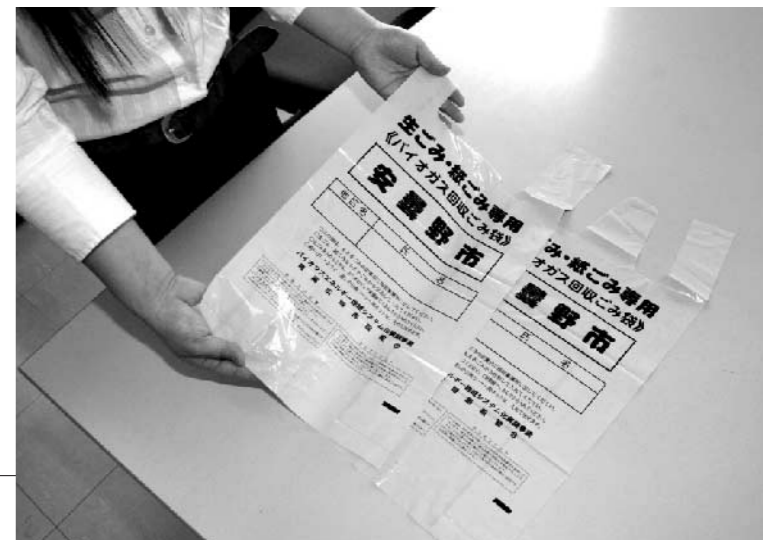
この3つの事業は、独立行政法人「新エネルギー・産業技術開発機構」(NEDO)と共同で行っている「バイオマスエネルギー地域システム化実験事業」、三郷堆肥センターでの「堆肥化実証実験事業」、穂高の美岳町地区の「生ごみ分別回収モデル地区事業」です。それぞれの事業に、住民の皆さんから生ごみ分別収集のご協力をいただいています。今回はNEDOの実験事業について紹介します。  
◇NEDO実験事業  
この事業は、今まで焼却していた生ごみと紙ごみからエネルギーを取り出すというもので、穂高広域施設組合が、NEDOからの委託を受けて

実施(総事業費約10億4,000万円)しています。  
市は、穂高地域の穂高町区、穂高区、狐島区、青木花見区、島新田区の5区、豊科地域の成相区、新田区の2区、併せて6,000戸の皆さんに、可燃ごみの中から生ごみと紙ごみの分別を黄色の専用袋を使いお願いしています。  
集められた生ごみと紙ごみは、乾式メタンガス発酵・固形燃料化施設に投入され、メタン

# 生ごみの分別回収モデル事業

市が実施している3つの生ごみの分別回収モデル事業。このうち、新エネルギー産業技術開発機構(NEDO)の実験事業について紹介します。

生ごみ・紙ごみ回収に使われる黄色でタテ40センチの大きさの袋



みんなで作る 循環型社会